



地域の人々の応援と自然を糧に 「ふれあえる」をつくる

五十嵐 大介さん / 五十嵐 早矢加さん ベレケの村 村長 / 副村長

Daisuke Igarashi & Sayaka Igarashi

房総半島の先端で、理想とするキルギスの農家のような暮らしを始めた夫婦。
地元の人たちが温かく見守る中、夫婦の育てるカレンデュラの花は、全国の人たちを魅了する。
目指すのは、人と自然が共存し、心地よい農の営みを通じて「ふれあえる」関係を創ること。

南房総半島に広がる カレンデュラの花畑

「白浜の人たちは、キルギス人みたいに私たちのことを気にしてくれるんです」ゆったりとした口調でこう話すのは、千葉県南房総市の最南端にある白浜町で農場「ベレケの村」を運営する五十嵐大介さん、早矢加さんご夫妻。この地に移住して4年、子どもたちを育てながら、花や野菜を作って暮らしている。「ベレケ」とは、2人が協力隊として活動したキルギスの言葉で“恩恵、贈り物”という意味。自然と共存しながら、心地よい農の営みを目指している。

房総半島は温暖な気候を利用した花栽培が盛んで、五十嵐さんたちもオレン

ジ色のきれいなカレンデュラ（キンセンカ）を育て、せっけんやオイルなどコスメ商品を開発し、販売している。「カレンデュラは日本では仏花のイメージですが、海外ではハーブとして利用されています。だからこそ、売り方次第では商機があるのではと思いました」国産のカレンデュラは珍しく、北海道や関西からも注文があるという。

のちの宝となる キルギスでの経験

夫婦はともに青年海外協力隊に参加し、赴任先のキルギスで出会った。畜産が専門の大介さんは、実際に家畜を飼い、肉をさばくまでの過程を体験した

いとの思いから、協力隊に参加。現地では、地方の村に住みながら各戸を回り、畜産と農業の現状を調査。糞や飼料の有効活用や野菜栽培の輪作などを普及させた。

自然と隣り合わせの生活は新鮮だった。井戸が凍って水が飲めなくても「氷が解けたら飲める」と言われ、「そういうものか」と思いながら生活をしている





「ベレケの村」を象徴するカレンデュラ。今では幼い我が子が花摘みに加わり、夫婦の夢だった「家族農業」が営まれている。



収穫したトマトは大手食品会社とのコラボによりスープとしても販売。大手百貨店でも取り扱われる人気商品になっている。



カレンデュラの恵をたくさんの方に届けたい—そんな思いから生まれた、無添加で作られるこだわりコスメの数々。

うちに、「なんとかなる」という感覚が自分の中に芽生えたという。

一方の早矢加さんは、海外への興味から外資系企業に就職するも景気悪化で海外勤務が難しくなり、協力隊参加を決意。現地では一村一品プロジェクトの立ち上げメンバーとして、営業やマーケティングのスキルを活かしながら、商品開発から生産、販売、収入の向上までを担当した。「『無印良品』から注文をいただき、羊毛フェルトの商品を村人と一緒に作ったんですが、品質が悪くてみんなで作り直したこともありました」苦労は多かったが、いつしか村人たちにもやる気がみなぎっていた。

早矢加さんは日本で働いていたときよりフットワークが軽くなり、コミュニケーション能力も上がったという。「相手が何をしたいのかを汲み取り、それを実現させていく力がついたと思います」

「ベレケの村」から 房総半島の地域モデルへ

2人は帰国後に結婚、「キルギス人のように家族農業を営みながら暮らした

い」という夢を描いた。それぞれ仕事を辞めて北海道に渡り、大介さんが畜産農家で研修を、早矢加さんは地域おこし協力隊の活動をしながら移住の準備を始めた。しかし、北海道での新規就農は広大な土地を借りるなど規模が大きく、2人のイメージしていた牧歌的な農家の暮らしとは程遠かった。「理想と現実で行き詰まった時に思いついたのが、キルギスで見たカレンデュラの花畑だったんです」

こうしてカレンデュラの生産量日本一の南房総市で師匠を探し、家族で移住。弟子入りして、小規模就農から始めることができた。ソラマメや菜花など野菜づくりも順調で、生鮮品だけでなくソースやスープなどの加工食品も販売している。「やっと慣れてきた感じです。ただ、気候も土も毎年違う顔を見せるので勉強の繰り返し、奥深いですよ。今はカレンデュラの商品を広めることが一番ですが、そのうち牛やヤギも飼ってキルギスのような複合的な農業ができればいいですね」

昨年、カレンデュラを使ったハンドメイドソープと手作りコスメキットが、地方の隠れた名品を選ぶ「にっぽんの宝

五十嵐 大介さん プロフィール

兵庫県出身。大学卒業後、食品会社勤務を経て青年海外協力隊に参加。家畜飼育隊員としてキルギスで活動。帰国後、就農を目指して北海道で畜産の研修を受講。2016年に千葉県南房総市へ移住し、夫婦で「ベレケの村」を起ち上げて理想の農を営む。

五十嵐 早矢加さん プロフィール

奈良県出身。大学卒業後、外資系企業に就職し、青年海外協力隊に現職参加。村落開発普及隊員としてキルギスで活動。帰国後、復職を経て北海道へ移り、地域おこし協力隊として活動。2016年に南房総市に移住し、夫婦で「ベレケの村」を運営中。

物」千葉県大会の「ものづくり部門」準グランプリを獲得した。家族農業をしていきたいという強い意志をもつ夫、自身のマーケティング経験を活かして次なる展開を考える妻。そんなバランスの取れた夫婦には、「ベレケの村」の未来図がある。

「近所の皆さんは私たちのことを本気で心配し、応援してくれるんです。ゆくゆくは、ここを農業体験などができ、人の集まる場所にしたいと思っています。早く自立経営できるようになり、房総を代表する地域モデルになっていきたいですね」

五十嵐さんへの エール!

南房総市農林水産部
農林水産課
地域資源再生室
平野 智章さん



地域を活気づけてくれるご夫婦

南房総市を就農地として選んでもらい、感謝しています。地元農家から技術を習得し、栽培から加工、販売までを自分たちで行い、バイタリティーがありますね。大手食品会社とコラボした商品販売やインターネット販売も上手です。ご夫婦は人柄がよく、草刈りなどの地域活動にも参加してくれています。これから経営規模を拡大する計画があるとのこと、地元住民たちの雇用機会をつくってもらえれば嬉しいですね。